

令和 2年 2月

# 岸真文 学位論文審査要旨

主 査 萩 野 浩  
副主査 藤 井 進 也  
同 花 島 律 子

## 主論文

Predictors for incident mild parkinsonian signs in older Japanese

(日本人高齢者における軽度パーキンソン徴候発症の予測因子)

(著者：岸真文、和田（礒江）健二、花島律子、中島健二)

令和2年 Yonago Acta Medica 掲載予定

## 参考論文

1. Longitudinal course of mild parkinsonian signs in elderly people: a population-based study in Japan

(高齢者の軽度パーキンソン徴候の縦断的経過：日本の住民ベース研究)

(著者：和田（礒江）健二、田中健一郎、植村佑介、中下聡子、田尻佑喜、田頭秀悟、山本幹枝、山脇美香、岸真文、中島健二)

平成28年 Journal of the Neurological Sciences 362巻 7頁～13頁

2. Differences in clinical characteristics when REM sleep behavior disorder precedes or comes after the onset of Parkinson's disease

(レム睡眠行動障害の出現がパーキンソン病発症の前か後かによる臨床的特徴の違い)

(著者：野村哲志、岸真文、中島健二)

平成29年 Journal of the Neurological Sciences 382巻 58頁～60頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は地域高齢者の前向き観察によって、軽度パーキンソン徴候（mild parkinsonian signs : MPS）の新規発症リスク因子を検討したものである。8年間の間隔で神経学的診察によってMPSの発症を診断し、ベースラインの調査結果に基づいてリスク因子の解析が行われた。その結果、性・年齢で調整した多変量解析において、運動習慣、Tannerスコア、PSQIスコア、DWMHスコアがリスク因子として抽出された。前向き研究による詳細な解析の結果は臨床的に有用であり、明らかに学術水準を高めたものと認める。